

「児童虐待」が大きな社会問題となっています

厚生労働省のまとめによると、平成 29 年度に全国の児童相談所が対応した児童虐待の件数は 13 万 3778 件（速報値）で過去最多を更新したことが分かりました。警察からの通告や子どもの目の前で家族に暴力を振るう「面前 DV」が増えてきたことによるそうです。今や児童虐待は大きな社会問題となっています。

児童相談所での児童虐待相談対応件数
（厚生労働省）



児童虐待は 4種類に分類されます

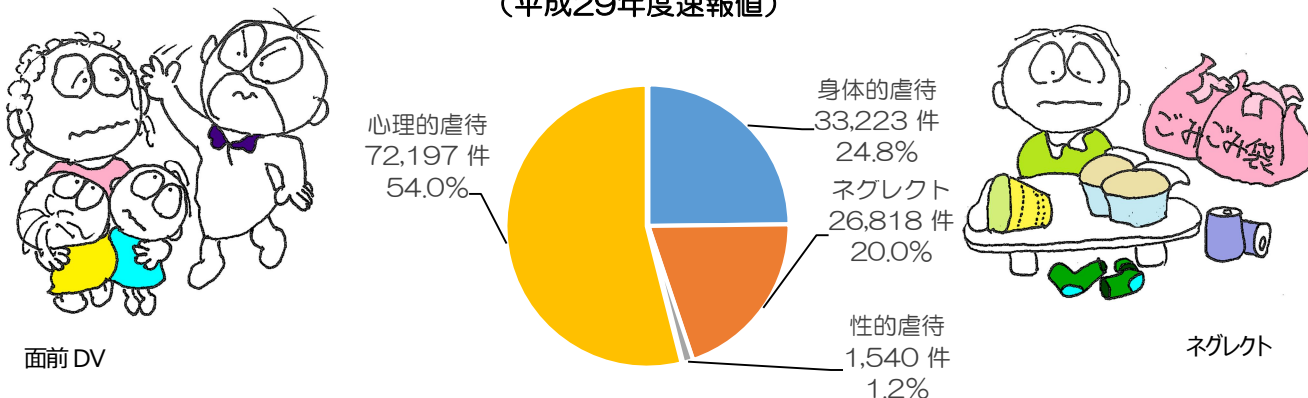
【心理的虐待】

言葉によるおどし、無視、きょうだい間での差別的な扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう（面前 DV）など。

【身体的虐待】

なぐる、ける、たたく、投げ落とす、激しくゆさぶる、やけどを負わせる、溺れさせるなど。

虐待相談の内容別件数
（平成29年度速報値）



【性的虐待】

子どもに性的な行為をしたり、させたりする、性的なものを見せる、ポルノの被写体にするなど。

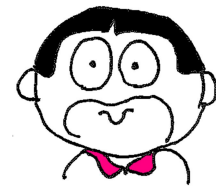
【ネグレクト（養育放棄）】

家に閉じ込める、食事を与えない、不潔なままにする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れていかないなど。

虐待が子どもに与える影響は？

マルトリートメントって知っていますか

参考：「子どもの脳を傷つける親たち」 友田明美著（NHK出版新書 2017年）

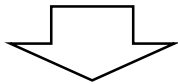


「ええ、脳が
変形するの？」

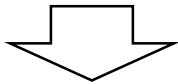
マルトリートメントとは、mal（悪い）treatment（扱い）と表し、日本語では「不適切な養育」と訳されます。虐待とほぼ同義ですが、子どもの心身の健全な成長を阻む不適切な養育をすべて含んだものです。

「しつけのつもり」が暴行へとエスカレートして虐待になってしまうこともあります。一見残虐性が感じられないものもありますが、継続されることによって子どもを傷つけ、発達を阻害しているのであれば、マルトリートメントにあたります。何気ない一言や行動が、子どもの脳を傷つけています。子どもの心の状態に目を向けなければなりません。

不適切な養育を子どもに与える。



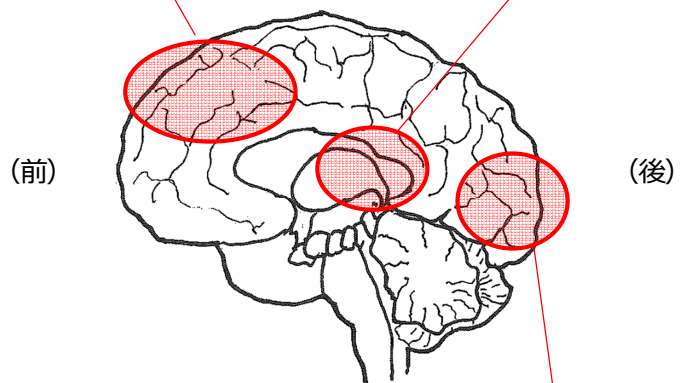
子どもの脳は、不適切な養育によって極度のストレスを感じ、その苦しみから逃れようと自ら変形してしまう。



脳が変形すると、視覚野や聴覚野などの各分野に影響を及ぼし、感情のコントロールや記憶力・認識力などの低下につながることもある。

体罰⇒前頭前野の萎縮
（感情や思考、行動抑制力に関わる領域。集中力や意思決定、共感の低下につながる。）

暴言⇒聴覚野の肥大
（コミュニケーションに重要な役割を果たす領域。過度の不安感や適応能力の低下につながる。）



面前 DV⇒視覚野の萎縮
（情報をキャッチする領域。記憶力や学習能力の低下につながる。）

もしかして虐待ではと思ったら…

参考：NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク



子どもを虐待から守るための5カ条



- 1 「おかしい」と感じたら迷わず連絡（通告してください）
- 2 「しつけのつもり」は言い訳（子どもの立場に立って判断しましょう）
- 3 ひとりで抱え込まない（あなたにできることから即実行しましょう）
- 4 親の立場より子どもの立場（子どもの命を最優先しましょう）
- 5 虐待はあなたの周りにも起こりうる（特別なことではありません）

児童相談所全国共通ダイヤル 189（いちばやく） * お近くの児童相談所につながります。

警察 110